



宮崎県公共事業景観形成指針に基づく取組状況
(令和6年度)

宮崎県

取組状況シート(道路)

年度	路河川名 (施設名) 市町村名	写真	取組の概要	担当部署
令和6年度	県道油津停車場線 (油津駅) 日南市		日南土木事務所が管理する油津駅前花壇では、美しい宮崎づくりの一環で、地元の団体と花植えと月1回のメンテナンス会を実施した。	日南土木事務所 工務課 道路担当
令和6年度	県道飫肥停車場線 (飫肥駅) 日南市		日南土木事務所が管理する飫肥駅前花壇では、美しい宮崎づくりの一環で、地元の住民と花植えを実施した。	日南土木事務所 工務課 道路担当
令和6年度	県道都井岬線 串間市		都井岬は世界で有数の野生馬の観光スポットである。この岬へ繋がる県道都井岬線では野生馬を間近で見るができる。	串間土木事務所 工務課 道路担当
令和6年度	国道268号 小林市		美しい宮崎づくりの一環として、平成22年から小林市立三松中学校と造園業者との協同作業により国道沿いの植栽ますに花植えを行った。	小林土木事務所 道路課 道路保全担当
令和6年度	県道小林えびの高原牧園線 小林市		本路線はえびの高原に通ずる道であり、豊かな自然が広がっているため、景観を崩さないように木製のガードレールを設置した。	小林土木事務所 道路課 道路保全担当
令和6年度	県道えびの高原小田線 えびの市		景観に配慮した色彩(ダークブラウン)のガードレールを設置した。	小林土木事務所 道路課 道路建設担当

取組状況シート(道路)

年度	路河川名 (施設名) 市町村名	写真	取組の概要	担当部署
令和6年度	県道えびの高原小田線 えびの市		吹付法砕工において、景観に配慮し明度を抑えるため茶系顔料を添加して施工した。 法面緑化については、移入種の混入防止のため、種子無しの植生マットや吹付工を施工し、景観や自然環境保全に配慮した。	小林土木事務所 道路課 道路建設担当
令和6年度	県道延岡インター線 延岡市		延岡市民の憩いの場である五ヶ瀬川堤防に隣接した道路区域の植樹帯で地元中学校(岡富中学校、北川中学校)とNPO団体 コノハナロード延岡市民応援隊と協同での花植を実施した。(R6.12)	延岡土木事務所 道路課 道路保全担当
令和6年度	県道稲葉崎平原線 延岡市		延岡市街地の通学路の植樹帯で地元中学校(恒富中学校)と協同での花植を実施した。(R7.2)	延岡土木事務所 道路課 道路保全担当

取組状況シート(河川・ダム)

年度	路河川名 (施設名) 市町村名	写真	取組の概要	担当部署
令和6年度	一級河川小丸川水系 切原川		河道内の樹木伐採及び河道掘削を実施し、埋塞された左岸階段護岸を復元し、観光施設から河川へのアクセスを可能とした。	高鍋土木事務所 工務課 河川砂防担当

取組状況シート(治山)

年度	路河川名 (施設名)	写真	取組の概要	担当部署
令和6年度	予防治山事業 鍛冶屋園 串間市		山腹工において木製パネル工を使用することで、斜面表土の流亡を防止し、周辺環境との調和を図った。 また、クヌギの植栽工を施工することで、崩壊防止機能の高い森林の造成や環境の保全を行った。	南那珂農林振興局 林務課
令和6年度	令和5年度予防治山事業 敷内 都城市山之口町		コンクリート治山ダムにおいて、型枠を木製残存型枠とすることで、周辺環境との調和を図った。	北諸県農林振興局 林務課
令和6年度	令和5年度林地荒廃防止事業 田上 北諸県郡三股町		崩壊した山腹斜面において、木製校倉式土留工3個を施工したほか、植生マットや木製パネル工を施工し、崩壊斜面の復旧と植生の回復を図った。	北諸県農林振興局 林務課
令和6年度	災害関連緊急治山事業 亀野 西諸県郡高原町 大字広原		崩壊した山腹斜面において、法枠工(中詰:植生基材)や木製パネル工を施工することで、崩壊斜面の復旧と植生の回復を図った。	西諸県農林振興局 林務課
令和6年度	林地荒廃防止事業 縦木原2号地 えびの市大字末永		崩壊した山腹斜面において、木製パネル工や植生マットを施工し、崩壊斜面の復旧と植生の回復を図った。	西諸県農林振興局 林務課

取組状況シート(治山)

年度	路河川名 (施設名) 市町村名	写真	取組の概要	担当部署
令和6年度	林地荒廃防止事業 奥平工区 西臼杵郡高千穂町		コンクリート治山ダムにおいて、型枠を木製残存型枠とすることで、周辺環境との調和を図った。	西臼杵支庁 林務課

取組状況シート(建築)

年度	施設名 (道路河川名等) 市町村名	写真	取組の概要	担当部署
令和6年度	宮崎県山之口陸上競技場		<p>周囲の山並みの景観に呼応した、山形の屋根を架けることにより自然景観と調和しながら地域のランドマークとなる景観創出を図った。</p> <p>山並みのある自然景観を活かすために、建物は原色などを使用しない、アースカラーを基本とした色彩計画を行った。また都城市が整備する敷地内の他の建物や外構を含めて仕上げ材や色調を合わせることで全体の調和を図った。</p>	県土整備部営繕課
令和6年度	宮崎県山之口陸上競技場		<p>建物全体を山形の屋根で覆わずにアーチ状の開口部を設けることで、建物が周囲に与える圧迫感を軽減した。</p> <p>また、霧島連山に向かって開放的な構成とすることで、霧島連山を望む新たな視点場を創出した。</p>	県土整備部営繕課
令和6年度	宮崎県山之口陸上競技場		<p>建物2階コンコースの床材には新燃岳の降灰を利用したレンガを採用し、地域特性に配慮した材料選定を行った。</p>	県土整備部営繕課
令和6年度	宮崎県山之口陸上競技場		<p>公園敷地内は電線を埋設し、道路からの引き込みを1箇所に集約することで、道路から建物へのアプローチや建物からの眺望における良好な景観の創出を図った。</p>	県土整備部営繕課